

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

「一島一家」の取組で高品質果実の安定的な生産・出荷体系を実現

○氏名又は名称 JA えひめ中央 釣島支部（代表 池本 雄吉）

○所在地 愛媛県松山市

○出品財 経営（かんきつ）

○受賞理由

・地域の概要

釣島支部の生産園地が所在する釣島及び興居島は、愛媛県の松山沖に位置し、かんきつ産業が盛んな瀬戸内海の小さな離島である。年間平均気温16.1℃、降水量1,297mm、日照時間2,188時間と、降雨が少なく日照時間が長い温暖な気候である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

JAえひめ中央釣島支部は、19人の部会員により釣島と興居島の一部でかんきつ生産を専業に行っている。平成20年頃までは宮内伊予柑を中心に栽培していたが、価格の低迷等により支部全体で品種構成を見直し、「紅まどんな^{*}」や「せとか」等の優良な新品種への転換と、施設栽培等による高品質化・ブランド化に積極的に取り組み、経営の安定化と高収益化を図っている。

※愛媛県オリジナル品種「愛媛果試第28号」のうち一定の品質基準をクリアして出荷されるもの。

・受賞者の特色

（1）優良品種への転換と施設化の推進

JAえひめ中央釣島支部では、経営リスクや労力を分散し経営の安定化を図るため、品種構成を見直し、高収益が見込める品種への転換を推進した。また、岩盤が固く地下水の利用が困難なため、貯水タンクを設置し雨水の効率的利用を図るとともに、「紅まどんな」等における施設栽培を推進し、果実の高品質化、ブランド率向上を図っている。

（2）「一島一家」の取組

釣島には「一島一家」という言葉があり、自分だけでなく皆で栽培技術の向上、高品質果実の安定生産を目指そうという高い意識を持ってかんきつ栽培に取り組んでおり、部会員同士でお互いの園地を見回り、意見交換や情報提供をし合っって切磋琢磨している。こういった小さな離島ならではの取組が栽培技術の向上、高品質果実の安定生産に繋がっている。

・普及性と今後の発展方向

収益性の向上と経営リスクや労力の分散を考慮した品種構成と支部全体の高い栽培技術は、経営の安定をもたらし、離島にもかかわらず後継者が確保されており、園地の次世代への継承が円滑に図られている。また、これらの取組は、島しょ部における産地の優良モデルとしてかんきつ産地の持続的発展に向けて貢献している。今後は、園地の団地化を進め、作業の効率化・省力化に取り組むこととしている。